

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 24 日現在

機関番号：37104

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530730

研究課題名（和文） LTD 話し合い学習法による PISA 型読解力の育成

研究課題名（英文） Developing Reading Literacy Based on Learning Through Discussion

研究代表者

安永 悟（YASUNAGA SATORU）

久留米大学・文学部・教授

研究者番号：60182341

研究成果の概要（和文）：本研究は、LTD 話し合い学習法に基づいて、PISA 型読解力を育成する授業づくりを目的とした。そのために、まず、教師の指導力を高める研修会を定期的に行い、研修プログラムを開発した。研修で訓練を受けた教師と共に、小学生を対象として、読解力を育成する授業づくりを行った。その結果、LTD に基づく授業を体験することにより、生徒の読解力が向上し、対人関係が好転することが見いだされた。その効果は、健常児のみならず、要支援児においても有効である可能性が示された。また、大学生を対象とした言語技術の授業に LTD を導入した。その結果、大学生の読解力、対話力、文章作成力が向上した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to make effective lessons, which develop reading literacy based on Learning Through Discussion (LTD). In order to achieve this purpose, first of all, the training programs, which heighten teachers' educational abilities, were developed. Then, the lessons based on LTD were made with the teachers who received these training programs. As a result, it was found that children's reading literacy and human relation skills were improved by the lessons. Also, the results showed that the lessons were effective for not only healthy children, but also handicapped children. Moreover, LTD was introduced into the lessons of the language skills for university students and vocational school students. Consequently, the students' reading skills, debate skills, and writing skills were improved.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：協同学習・LTD 話し合い学習法・PISA 型読解力

1. 研究開始当初の背景

(1) 教育現場の実態

小学校から大学まで、どの教育段階においても、論理的思考に基づく言語技術の育成が、教育界全体として解決すべき喫緊の課題として注目されていた。

小学校現場では、経済協力開発機構（OECD）が提唱する PISA 型読解力（文部科学省，2005）の育成が求められていた。この PISA 型読解力に関して、日本の児童は読解プロセスのなかでも「解釈」「熟考・評価」が弱いこと、「自由記述（論述）」の力が低いことが明らかと

なっていた。

大学教育においては、初年次教育科目が注目されるにつれ、レポートの書き方や対話力など、論理的な言語技術の育成が大きな課題となり、さまざまな試みが始まっていた。

(2) LTD 学習法と言語技術

PISA型読解力の育成にとってLTDの有効性が示唆されていた(須藤・安永, 2009)。LTDは過程プラン8ステップ(St.)より構成されており、PISA型読解力が求める読解プロセスと軌を一にしている。具体的には、テキスト情報の「取り出し」や「解釈」はSt.1~St.4に、「熟考」はSt.5とSt.6に、「評価」はSt.7とSt.8に対応している。

このLTDは本来、大学生を対象として開発された読解力と対話力を高める学習法であり、その有効性が期待されていた(安永, 2006)。

(3) 問題点の指摘

小学校において、それまでの読解指導はテキスト情報の「取り出し」と「解釈」、LTDでいえばSt.1~St.4までにとどまりがちであった。しかし、PISA型読解力を高めるにはSt.5~St.8の「熟考・評価」まで指導する必要がある。LTD過程プラン8ステップに沿ってテキスト内容の理解を深めることにより、PISA型読解力で求められるテキスト情報の「取り出し」「解釈」のみならず、「熟考・評価」の向上が期待できる。

この点に着目した須藤・安永(2009)は、小学生にも活用できる分割型LTDを開発し、その有効性を検討している。彼らは小学校5年生の国語科説明文の単元を対象に、分割型LTDに基づく授業を実践した。その結果、分割型LTDによる授業では、従来の話し合いに比べて活発な意見交換がなされ、授業後に実施した「単元テスト」(授業の理解度を測定する業者作成テスト)でみた理解度も、従来の成績と比べて著しい伸びが確認された。この知見を受け、本研究では分割型LTDによる授業づくりをさらに追究し、その効果性を検討する。

大学において、初年次教育の普及に伴い、論理的な言語技術の育成が問題となり、多くの試行錯誤がなされている。しかし、それらの試みは指導者の経験律に沿った授業構成と指導方法が中心であり、実証的な理論に沿った体系的な指導法が確立しているとは言えない。

そこで本研究では、大学生や専門学校生を対象とし、須藤・安永(2009)が開発した分割型LTDを用いた授業を展開するなかで、LTD過程プランに基づく論理的な読解法と対話法を育成する。そのうえで、LTD過程プランを基盤としながら論理的な文章作成力を育

成する。つまり、LTD過程プランに準拠しつつ、読解法、対話法、さらには文章作成法など、論理的な言語技術を重層的かつ継続的に育成する授業プログラムを構成し、検討する必要がある。

2. 研究の目的

(1) 教師支援プログラムの開発

LTDを基盤とする授業づくりにおいては、LTDの考え方や方法、およびLTDの基盤となる協同学習の理論と方法を、教師が熟知する必要がある。LTDに基づく授業づくりを円滑に進め、より大きな成果をあげることを目的とした、教師に対する研修プログラムを開発し、効果的な教育支援の方法を検討する。

(2) 小学生を対象とした授業づくり

本研究では、先行研究(須藤・安永, 2009)の方法と知見に基づき、小学校高学年の国語科と道徳の授業を対象に、PISA型読解力を育成するLTD型授業の有効性を検討し、LTDを中核に据えた授業づくりに影響する要因について、主に下記2点から検討を加える。

①本研究では、先行研究とは異なる説明文(連続型テキスト)の単元、および絵図(非連続型テキスト)を用いた作文の単元を対象に分割型LTDに依拠した授業を展開し、その有効性を再度検討する。

②低学力児や要支援児など、個人差を考慮したLTD授業づくりについて検討を加える。

(3) 学生を対象とした授業づくり

大学生や専門学校生を対象にして、これまで実践されてきた標準型LTDによる授業づくりは、①授業時間中におけるLTDの解説、②授業時間外における予習、③授業時間中における60分間のミーティング、という手順に従っていた。この標準型LTDを用いた場合、複雑なLTD過程プランの獲得に困難を示す学生が少なからずいる。そこで、須藤・安永(2009)が提唱した分割型LTDに基づき、より分かりやすい導入法を検討する。また、LTDによる授業づくりを通して、読解力のみならず、対話力や文章作成力の育成をめざした体系的かつ重層的な授業モデルの構築を試みる。

3. 研究の方法

本研究は大きく二つの活動に分かれていた。一つは教師への支援活動であり、一つは教師と連携した授業づくりである。

(1) 教師への支援活動

LTDを中核に据えた授業づくりを行うためには、その基盤となる協同学習の理論と技法の修得が前提となる。協同学習の修得には教師の教育観まで踏み込んだ、継続的な支援が

必要となる。

そこで、本研究の協力校（1中2小の中学校区が中心）に対しては、協力校にて、繰り返し研修会を開催した。その内容は、協同学習の基本的な考え方と具体的な技法の指導、協同学習を組み込んだ授業づくりと指導案作成の指導、および授業実践の指導・検討であった。

なお、上記研究協力校では、小中連携教育の推進をテーマとした研究指定を市教育委員会から受けたことがきっかけとなり、協同学習を基盤とした学習指導法を、中学校区をあげて採用することになった。そこで、当初予定していなかった中学校区全体に対する教育支援・指導を行うこととなった。

また、筆者の勤務校において定期的に「授業づくり研究会」を開催し、研究協力校の教師も含め、協同学習による授業づくりに関心のある小・中・高・大および専門学校の教師が相互に研鑽を積んだ。本研究会の内容は、筆者による協同学習を基盤とした授業づくりやLTDを中核に据えた授業づくりについての体験的理解と、参加者の授業実践の報告と検討が中心であった。

(2) 教師と連携した授業づくり

研究協力者である小学校教師と連携して、LTDを中核とした授業づくりを繰り返し試みた。その際、先行研究（須藤・安永，2009）で提案した分割型LTDに基づく授業づくりを基本に据えた。

分割型LTDに基づく授業では、LTD過程プランのステップごとに、授業時間内に学習法を解説し、各ステップの「予習」と「ミーティング」を「対」にして実践する。この方法を採用することで、小学生を対象に、LTDを中核に据えた授業づくりが可能となった。対象教科は国語と道徳が中心であった。

授業づくりにおいては、授業を実践する研究協力者（小学校教師）と筆者が繰り返し協議を行い、指導案を作成して実践した。

また、LTDによる読解力の育成に加え、LTDにより育成された読解力や対話力に基づき、討論（ディベート）や文章作成の指導をおこなう授業モデルの構築を試みた。対象とした授業は、大学や専門学校で開講されている初年次教育科目であった。

4. 研究成果

本研究を構成する2つの活動ごとに研究成果を報告する。

(1) 教師への支援活動

① 研究協力校での活動成果

研究協力校（1中2小の中学校区）の教師を対象とした協同学習の勉強会を2010年度は月

1回のペースで5回開催した。開催時間は17時から約1時間であった。会場は研究協力校の一室で行った。参加は任意であり、私的な勉強会という位置づけであった。参加者は毎回20名程度であった。また、中学校区全体を対象とした研修会も開催した。

2011年度と2012年度は定期的な勉強会にかわって、研究協力校が主催する研修会と授業検討会が中心となった。また、2012年度に開催した「小中連携教育」に関する中学校区全体としての発表会に向け、指導案の作成を指導した。

これらの研究協力校に対する教育支援活動の一部は、冊子「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる児童・生徒の育成」（太宰府市立太宰府東中学校・太宰府東小学校・太宰府南小学校編，2012）にまとめられている。

② 授業づくり研究会での活動成果

「協同による活動性の高い授業づくり」を標榜した「授業づくり研究会」を月一度のペースで開催した。会場は筆者の勤務校であった。参加者は小・中・高・大、および専門学校の教師が中心で、参加者は毎回30名から50名であった。研究会で報告された授業実践は説明文、看图作文、生物学、言語技術、看護技術、看護過程、キャリア教育、心理学などを対象とした授業であり、内容は多岐にわたっていた。これらの授業を協同学習の観点から検討し、より望ましい授業のあり方について議論を行った。

本「授業づくり研究会」および先に紹介した「勉強会」を通して、協同学習の初心者に対する研修方法が徐々に構築された。そこでは、一方向的な授業経験しかない教師を対象に、生徒の活動性を高める工夫と、その背後にある協同学習の理論と技法を指導し、最後は「協同による活動性の高い授業づくり」ができるようになるまでの研修内容となっている。その成果は、2010年4月から1年間にわたり看護雑誌「看護教育」に連載した「活動性を高める授業づくり：協同学習のすすめ」で紹介した。また、この連載をベースに執筆した同名の書籍「活動性を高める授業づくり：協同学習のすすめ」を2012年に出版した。

なお、LTD話し合い学習法に関しては、安永（2006）によるテキスト「実践・LTD話し合い学習法」（ナカニシヤ出版）に基づき、研修プログラムの開発を行った。このプログラムに基づき、複数の学会でワークショップを開催し、プログラムの有効性を確認すると同時に改善に取り組んできた。これらのワークショップを通して得た知見を加味しつつ、LTD話し

合い学習法に関する新たなテキストを執筆中であり、2013年度中には出版予定である。

(2) 教師と連携した授業づくり

本研究期間中、研究協力者たちと多くの実践を行ってきたが、本報告書では代表的な実践研究として、以下の3点を紹介する。

① 話し合いを意図した「予習」が道徳学習に及ぼす効果：LTD 話し合い学習法に基づく授業実践（須藤・安永，2010）

本研究の目的は、小学校の道徳授業で多用されている文章資料を中心とした授業において、文章資料の「予習」を徹底し、「話し合い」を活性化することで、道徳教育の実効性を高める、新しい学習指導法を検討することであった。公立小学校5年生1クラスを対象に、クラス担任がこの新しい方法を試みた。文章資料の予習と話し合いでは、須藤・安永（2009）が国語で開発した分割型 LTD を援用した。その際、これまでの道徳の授業では保障されていなかった予習の時間を確保するために、朝活動や、昼休み前の細切れの時間を活用した。その結果、「予習」によって児童一人ひとりが自分の考えを明確に持つことができ、従来の指導方法では受動的であった児童がグループやクラス全体の「話し合い」において、能動的に関与することが観察された。また、「話し合い」を通して、周りの友だちから認められ、自分の成長を実感できる場面も確認された。本実践研究により、道徳指導において文章資料を使用する場合、「話し合い」を活性化し、道徳的価値に対する考えを深めるためには、LTD に基づく文章資料の徹底的な「予習」と「話し合い」が有用であることが示された。

② 読解リテラシーを育成する LTD 話し合い学習法の実践：小学校5年生国語科への適用（須藤・安永，2011）

本研究では、PISA 型読解力の育成を目的に、分割型 LTD に依拠した小学校国語科の授業を設計し、その有効性を検討した。LTD は8ステップからなる過程プランに従って読書課題を読解する。個人で行う予習と集団で行うミーティングで構成されている。本実践では、ステップごとに予習とミーティングを授業時間内で実施した。対象児は同一の公立小学校5年生2クラス52名、対象単元は説明文（全15時間）であった。授業は、単元見通しや課題明示など協同学習の基本事項を考慮しながら実施した。学習成果は、PISA 型読解力の「情報の取り出し」を測定する「基礎テスト」と「解釈・熟考・評価」を測定する「活用テスト」、学級集団の特質を測定する「Q-U」で検討した。実践結果を比較対象群（他の公立小学校2校6クラス182名）の結

果と比較したところ、LTD に依拠した授業の結果、活用テストの成績が比較対象群よりも有意に高く、もともと成績が低かった児童の伸びが大きいことが確かめられた。また、「Q-U」の結果から「学級の雰囲気」「学習意欲」と「承認」が改善され、学び合える学級集団が形成されていることが確認された。

なお、公表した論文では割愛したが、対象となった2学級には要支援児が合わせて7名在籍していた。彼らはアスペルガーやアスペルガー傾向、ADHD、LDなどの障害をもつ子どもたちであった。彼らのうち、全てのデータを収集できた要支援児5名の学習成績の変化を見ると、「基礎テスト」において LTD の効果が明確に現れていた。つまり、LTD を導入していない1学期と2学期の成績と比べると、LTD を導入した3学期の成績は大きく伸び、健常児とほとんど同じ水準の成績を示していた。ただし、「活用テスト」においては健常児に比べて低い成績しか示し得なかった。

③ LTD 話し合い学習法を活用した授業づくり

り：協同による授業「論理的思考の設計と実践」（須藤・安永，2011）

本研究は、協同学習の一技法である分割型 LTD を基盤として、論理的な言語技術の育成を試みた授業報告である。対象者は看護学生51名であった。授業は3段階で構成されていた。第1段階では LTD を導入して読解力と対話力の向上をめざし、論理的言語技術の基礎づくりを行った。第2段階では、ディベートを行い、論の構成能力を訓練し、相手を説得する対話力の育成を試みた。また第3段階では、エッセイの作成を通して文章力の向上をめざした。本授業の特徴は、①協同学習の理論と技法に依拠していること、②分割型 LTD を採用したこと、および③第1段階で導入した LTD に基づき、第2・第3段階の授業を展開したことである。その結果、認知と態度の同時学習が認められた。また、本授業で作成したエッセイ2編が全国コンテストに入選した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 須藤 文・安永 悟 2011 読解リテラシーを育成する LTD 話し合い学習法の実践：小学校5年生国語科への適用、教育心理学研究、査読有、59、474-487。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjep/59/4/59_4_474/_pdf
- ② 須藤 文・安永 悟 2010 話し合いを意図した「予習」が道徳学習に及ぼす効果、協同と教育、査読有、6、34-43。
http://jasce.jp/docs/jasce_006.pdf

- ③ 長濱 文与・安永 悟 2010 大学生の協同作業に対する認識の変化：対話中心授業と講義中心授業を対象に、人間関係研究、査読無、9、35-42.
http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/kanko/pdf/bulletin09/02_02.pdf

[学会発表] (計 9 件)

- ① 安永 悟 2013 解説・LTD話し合い学習法、大学教育研究フォーラム、3月15日、京都大学
- ② 安永 悟 2013 協同学習の原理と方法を学ぶ：LTD話し合い学習法を体験する、日本学校教育相談学会、1月6日、昭和女子大学
- ③ 安永 悟 2012 入門・LTD話し合い学習法、日本協同教育学会、9月22日-23日、日本歯科大学新潟生命歯学部
- ④ 安永 悟 2012 協同学習の考え方と進め方、初年次教育学会 第5回大会、9月5日、文京学院大学
- ⑤ 須藤 文・安永 悟 2011 LTD話し合い学習法を活用した授業づくり、初年次教育学会 第4回大会、8月31日、久留米大学
- ⑥ 安永 悟 2011 構造化の程度から見た協同学習と協調学習、大学教育研究フォーラム 第17回大会、3月18日、京都大学
- ⑦ 安永 悟 2010 活動性の高い授業づくり、日本心理学会 第74回大会、9月21日、大阪大学
- ⑧ 安永 悟 2010 日本協同教育学会、初年次教育学会 第3回大会、9月12日、高千穂大学
- ⑨ 安永 悟・藤田 哲也 2010 協同学習の考え方と進め方、初年次教育学会 第3回大会、9月11日、高千穂大学

[図書] (計 5 件)

- ① 安永 悟 2013 協同学習：授業づくりの基礎理論」初年次教育学会 (編) 「初年次教育の現状と未来」世界思想社、69-81.
- ② 安永 悟 2012 協同・協調学習、谷川裕稔 (編) 「学士力を支える学習支援の方法論」ナカニシヤ出版、125-130.
- ③ 安永 悟 2012 活動性を高める授業づくり：協同学習のすすめ、医学書院、総頁数 144.
- ④ 安永 悟 2011 LTD話し合い学習法と不確定志向性、杉谷祐美子 (編) 「大学の学び：教育内容を方法」玉川大学出版部、122-152.
- ⑤ 安永 悟 2010 対話中心の授業づくり、小田隆治 (編著) 「学生主体型授業の冒険」ナカニシヤ出版、29-42.

[その他]

- ① 雑誌「看護教育」12回連載、査読無、2010-2011 (医学書院) (計 12 件)
- a) 安永 悟 2011 同僚との授業づくり、52、3、236-241.
- b) 安永 悟 2011 協同学習とPBL、52、2、146-151.
- c) 安永 悟 2011 協同による看護技術教育、52、1、64-69.
- d) 安永 悟 2010 LTD話し合い学習法、51、12、1099-1105.
- e) 安永 悟 2010 授業実践上の留意点と効果、51、11、997-1003.
- f) 安永 悟 2010 授業づくりのポイント、51、10、908-913.
- g) 安永 悟 2010 対話中心の授業づくり (2)、51、9、814-819.
- h) 安永 悟 2010 対話中心の授業づくり、51、8、721-727.
- i) 安永 悟 2010 見通しの共有と規範づくり、51、7、598-603.
- j) 安永 悟 2010 協同学習とグループ学習、51、6、498-504.
- k) 安永 悟 2010 協同による授業づくりの準備、51、5、405-411.
- l) 安永 悟 2010 活動性の高い授業の実現に向けて、51、4、316-322.

② その他の雑誌 (計 4 件)

- a) 安永 悟 2011 協同による大学授業の改善：学生の変化成長を目指して、共創福祉、査読無、6、2、65-69.
- b) 安永 悟 2011 LTD話し合い学習法、大学教育と情報、査読無、3、2-7.
- c) 安永 悟 2011 事前・事後指導の工夫：久留米大学の事例、IDE「現代の高等教育」、査読無、5月号、34-39.
- d) 安永 悟 2010 学生の変化・成長を促す初年次教育を求めて、大学と学生、査読無、5、2-9.

③ 冊子 (計 4 件)

- a) 安永 悟・徳田 智代・日高 三喜夫 2013 初年次科目「教養演習 I」の実践報告、久留米大学文学部心理学科.
- b) 安永 悟 2012 子どもと教師が学び続ける学校：太宰府東中学校区の取り組みに寄せて、太宰府市立太宰府東中学校・太宰府東小学校・太宰府南小学校 (編) 「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる児童・生徒の育成：9ヶ年を見通した指導法に基づく小中連携教育を通して、109-118.
- c) 安永 悟 2012 協同による大学の教育改革、日本私立学校振興・共済事業団、私学経営情報センター (編) 「大学の魅力向上に向けて：平成 23 年度

第 2 回私学リーダーズセミナー講演
録、199-216.

- d) 安永 悟・徳田 智代・藤本 学 2011
「新入生歓迎プログラム」の企画と
「教養演習 I」との連携:実践報告、
久留米大学文学部心理学科.

④ 新聞報道 (計 1 件)

- e) 週刊医学界新聞 2012 年 6 月 25 日
付 第 2983 号 4 面 「協同学習で、
現場で活躍できる看護師を育てる
久留米大学・安永悟氏の授業づくり
に学ぶ」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安永 悟 (YASUNAGA SATORU)
久留米大学・文学部・教授
研究者番号: 60182341

(2) 研究分担者

長濱 文与 (NAGAHAMA FUMIYO)
三重大学・共通教育センター・准教授
研究者番号: 10555486
(H23→H24: 連携研究者)

以上